

令和6年度 第81回夏休み良書推薦運動

読書感想文コンクール

【表彰式】

令和6年10月12日(土)
会場 サンセール盛岡

主催 岩手県良書推進協議会
協賛 岩手県学校生活協同組合
後援 岩手県小学校長会
岩手県学校図書館協議会
岩手県PTA連合会

目次

- 一 祝辞
- 二 入賞者名簿
- 三 入賞者作品
- 四 審査を終えて
- 五 応募者名簿

表彰式次第

- 一 開式のことば
- 二 主催者あいさつ
- 三 賞状並びに記念品授与
- 四 審査報告
- 五 来賓祝辞
- 六 作品朗読
盛岡市立上田小学校 三年
田口 実千花
- 七 感想発表
宮古市立山口小学校 五年
箱石 好南
- 八 閉式のことば

審査員

大石 善弘 先生	近藤 澄江 先生	畠山 明美 先生	藤村 由美 先生	田代 五月 先生	大淵 奈実 先生	永井臣之介 先生	杉浦美香子 先生	谷藤 里佳 先生
----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

出会い 没頭し 気付く「すばらしきかな 読書！」

岩手県学校図書館協議会 会長 三 浦 建 成

(盛岡市立向中野小学校 校長)

岩手県良書推進協議会主催による令和六年度第八十一回夏休み読書感想文コンクールに参加され、見事入賞の荣誉に輝かれた皆さん、誠にありがとうございます。好きなことにじっくり取り組める夏休み。皆さんが興味を引かれた一冊と出会い、夢中になって読み進めていた姿が目に見えます。ページをめくる指がどんどん早くなり、心の中はドキドキ、ワクワク。最初は厚いと思った本も、きつとあっという間に読み終えてしまったのではないのでしょうか。

私もこの夏、時間を忘れ夢中になって読んだ本があります。本屋さんの目立つ場所に置かれていたその本は、私が好きな作家さんの新しい作品でした。そのうち時間を作って読みたいと思っていたのに、なかなか手に取ることができないまま時間が過ぎていきました。しかし、その後、ある知り合いの先生が実際にその本を手にしながら「絶対におもしろい！」そう話してくれたことが後押しとなり読み始めてみると、予想通り感情が揺さぶられるようなストーリー展開にすっかり引き込まれ、上下巻通してまさに一気読みでした。

本との出会いは不思議です。ましてや皆さんのように読み終わった後に感想文を書いてみようと思うくらいの本と出会うことは、めったにない縁なのだと思います。皆さんがその本と出会ったきっかけや読んでみようと思ったわけは、きつと感想文の中に書かれて

いることと思います。題名が気になったのでしょうか。それとも表紙のデザインでしょうか。本の帯にあったリード文だったかもしれません。興味や関心の対象も、例えば動物、スポーツ、将来なつてみたい職業など、まさに様々だったと思います。「本と出会うこと」が、すごく上手な皆さんですね。

私たちはいろいろな本を読みます。本屋さんや図書館で出会った本から、私たちは新しいことを知り、学んでいます。そして、知るだけでなく、自分と比べたり、「違うんじゃないかな」と疑問をもったりすることもあってでしょう。ジャーナリストの池上彰さんという方が、著書の中で、読書について「たくさん本を読むだけではだめ。自分の頭で考え、それをどう消化するか。そこまでやって初めて読書というのは意味がある」とおっしゃっています。多くのテレビ番組に出て、たくさんさんの情報や知識をもとに、とても分かりやすい言葉で楽しく教えてくれる池上さんも、読書のよさを認めつつ、大事なものは自分の頭で考えることだと言っています。その意味からすれば、まさに読み終わった後、書いてあったことについて自分の頭で考え、「ああそうか」と消化したり、新たに分かったり見付け出したり、さらには自分自身の成長に気付いたりしている皆さんは、とてもよい読書活動をしていると思います。

どうかこれからも、いろいろな本と出会ってください。出会ったら早速ページ目をめくり、一行目を読み始め、楽しく、没頭できる読書の時間を作ってください。そして、皆さんにとって「気付くこと・気付かされること」がたくさんある、そんなすばらしい読書との付き合い方をしてほしいと願っています。

令和6年度 第81回

夏休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

『は図書名

〈最優秀賞〉

たいせつなたんじょう日

『たんじょう日をとるもどせ！』

盛岡市立山岸小学校

一年 矢羽々 優結星

入ってみたいなきまぐれレストラン 『きまぐれレストラン』

盛岡市立永井小学校

二年 土田 晴日

みとめ合う心の大切さ

『かみさまのベビーシッター』

盛岡市立上田小学校

三年 田口 実千花

力を合わせて

『かみさまのベビーシッター』

滝沢市立滝沢小学校

四年 藤波 里桃

良いことの裏には

『へそまがりの魔女』

宮古市立山口小学校

五年 箱石 好南

幸せのものさし

『18枚のポートレート』

盛岡市立土淵小学校

六年 金森 一花

〈岩手県小学校長会長賞〉

なまえは、だいすき

『なまえのないねこ』

一戸町立奥中山小学校

一年 猪又 星希

また、会おうね

『紫式部ヘタイムワープ』

盛岡市立好摩小学校

四年 渡辺 花野

一人一人のカラー

『君色パレットⅡ』

陸前高田市立気仙小学校

六年 河野 陽菜

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

わたしめろんとよんであげるよ 『なまえのないねこ』

滝沢市立篠木小学校

一年 細谷 桃

すなおに話すことの大切さ

『飼育委員はアキラめない』

岩泉町立岩泉小学校

三年 佐々木 咲季

あと一歩のその先へ

『アタックライン』

奥州市立江刺ひがし小学校 五年 高橋 茉莉衣

〈岩手県PTA連合会長賞〉

ゆうじぶんだけの名前

「なまえのないねこ」

盛岡市立本宮小学校

二年 佐藤 遥翔

新しいことにチャレンジ

「飼育委員はアキラめない」

久慈市立久慈小学校

四年 櫻庭 悠馬

「パラリンピックは世界をかえるルートヴィヒ・グットマンの物語」
を読んで

「パラリンピックは世界をかえる」

平泉町立長島小学校

六年 千葉 碧依

〈優秀賞〉

一ねんに一どのたいせつな日

「たんじょう日をとりのどせ！」

宮古市立千徳小学校

一年 菊池 柚乃

「あーっとかたづけ」を読んで

「あーっとかたづけ」

盛岡市立城南小学校

二年 千葉 美乃里

「海のミッシェンクジラを、おえ。」を読んで

「海のミッシェンクジラを追え！」

盛岡市立本宮小学校

三年 栗秋 匠翔

これからもちょう戦しつづけよう「ドロップイン！」

花巻市立大迫小学校

四年 松坂 優凜

魔女を理解して

「へそまがりの魔女」

盛岡市立上田小学校

五年 土井尻 千紗

ろうかがつながらなくなつて

「18枚のポートレート」

滝沢市立滝沢第二小学校

六年 藤田 あかり

〈入選〉

またきてね

『ただいまねこ』

盛岡市立好摩小学校

一年 渡 辺 琴 花

「なまえのないねこ」を読んで「なまえのないねこ」

奥州市立水沢小学校

二年 藤 澤 志 帆

むらさき式部とこいのお話

『紫式部ヘタイムワープ』

盛岡市立仙北小学校

三年 相 原 集

みんなちがつて、みんないい

『かみさまのベビーシッター』

北上市立黒沢尻東小学校

四年 青 木 創志朗

本当のやさしさとは

『へそまがりの魔女』

一関市立藤沢小学校

五年 玉 澤 璃知佳

本当はやさしいへそまがり

『へそまがりの魔女』

盛岡市立城南小学校

六年 桐 田 景 護

〈学校賞〉

盛岡市立上田小学校

〈学級賞〉

該当なし

《佳作》

なまえはたからもの

『なまえのないねこ』

奥州市立江刺ひがし小学校一年 阿部 百叶

一年 最優秀賞

たいせつなたんじょう日

盛岡市立山岸小学校 一年

やはば ゆうせい

たんじょう日ってとてもうれしい日。プレゼントがもらえたり、ケーキだつてたべれる。ふだんはたべないようなごちそうをつくつてもらえて、みんなにおめでとうといつてもらえるときべつな日。一ねんのなかでじぶんだけにあたえられた一ばんすてきな日。

そんなうれしくてたのしい日に、りおのおとうさんもおかあさんもしごとにいってしまつたし、おともだちもおでかけしてしまつたなんて、とってもかなしいしさみしいよね。

カレンダーからりおのたんじょう日の「2」をぬすみだしたおおガラス。ほくのたんじょう日はぬすまれていないよねってあわててカレンダーをみてしまつたよ。りおは、じぶんのたんじょう日がなくなっているのがいやでひつしでおおガラスにしがみついたんだよね。ほくもたんじょう日がなくなつてずっと7さいのままなんてぜったいいやだよ。りおがたんじょう日なんていらないうっていったからカメンばあさまがもらつてくれたんだけど、やつぱりかなしくてもいらないなんていいけなかつたよね。カメン

ばあさまのたんじょうかいのじゅんぴをしながら、グリおばさんをまつこどもたちのことをしつて、りおのおかあさんもどういうきもちではたらいっているかきづいたよね。ほくのおとうさんとおかあさんもきつとほくのためにしごとをがんばっているんだ。りおのおとうさんとおかあさんも、ちようとつきゆうでかえつてきてくれたね。りおのたんじょう日をわすれるわけがないよ。だつて、りおのたんじょう日は、おとうさんとおかあさんがはじめておとうさんとおかあさんになつた日だから。りおのたんじょう日はかぞくのたんじょう日なんだから。

りお、たんじょう日とりもどせてよかつたね。ほくもたんじょう日をもつともつとたいせつにしていこうとおもつたよ。たいせつなことにきづかせてくれてありがとう。

(図書名「たんじょう日をとりのどせ!」)

〈講評〉

優結星さんの感想文には、「りおは」「ほくも」という言葉がくり返し出てきますね。主人公の行動や発言と、自分の生活や考えを比べながら書き進められていることの表れです。主人公の心が動いた部分、本のテーマを中心に取り上げ、「ほくのお父さんとお母さんもきつとほくのために仕事をがんばっているんだ。」と自分に引き寄せて書いている点などから、本の魅力を自分の中に取り入れ、心を耕していることが伝わってきました。本当に素敵な読み方ができていますね。

二年 最優秀賞

入ってみたいなきまぐれレストラン

盛岡市立永井小学校 二年

土 田 晴 日

ぼくは、夏休みにこうべのどうぶつ園でハシビロコウを見ました。図かんでは見たことがあったけれど、本ものは図かんより、しん長も口ばしも大きかったです。そのハシビロコウと、ぼくの大すきなネコが本のひょうしにのっていたので、この本を読んでみることにしました。

この本のきまぐれレストランでは、どうぶつたちがたのんだこのみの食べものが、どんなはこばれてきます。読んでいくうちに、つぎはどんなりょうりがはこばれてくるのかわくわくしてきました。はこばれてきたりょうりの中で、コウモリさんがたのんだくだものいっぱいゼリージュースがとてもおいしそうです。ぼくのところにもきまぐれレストランがきたら、コウモリさんのたのんだゼリージュースをぜつたいにたのみます。コウモリさんは、と中でねむってしまいました。ぼくならきれいにさいごまで食べきます。

さいごのりょうりは、おたん生日のペンギン四きようだいがたのんだごちそうでした。どんなごちそうだろうとたのしみにしていたら、ごうかな魚りょうり。みんながうたっ

ておいわいしていたら、りょうりをはこんでいたハシビロコウくんがばくつと食べてしまいました。ぼくはすぐくびつくりして、思わずふき出してしまいました。よく考えたらハシビロコウは魚を食べる鳥だと気づきました。どうぶつ園でハシビロコウを見たとき、ほとんどごうかなかったのも、しいくいんさんが魚を食べさせていると思っていました。この本を読んだあと、おかさんにしらべてもらったら、水めんに上がってくる魚をかくじつにとるためにじつとしていることがわかり、本のハシビロコウさんが一しゅんで食べてしまったわけがわかりました。

さいごにちようどよくたいやきやさんがきて、みんながえがおになってよかったです。

(図書名『きまぐれレストラン』)

〈講評〉

晴日さんは、だんらく(お話のまとまり)の作り方が上手ですね。はじめのだんらくで、この本を手にとったきっかけを書き、中のだんらくでは、運ばれてくる料理に想像をふくらませ、じぶんの気持ちをそえています。この本で一番盛り上がるころでは、「思わずふき出して」いるとともに、お母さんにハシビロコウの生態を確かめてもらった上で納得していましたね。お話の展開にそいながら、感想を語る見事な展開になっています。

三年 最優秀賞

みとめ合う心の大切さ

盛岡市立上田小学校 三年

田 口 実千花

「ふだんの私って、ボンテンと一しょだな。」私が「かみさまのベビーシッター」を読んで、一番に思ったことです。

なぜこの本をえらんだかというと、「かみさまの合宿って何だろう。面白そうだなあ。」と、きょう味を持ったからです。

このお話は、かみさまのことも、ボンテンと、そのめのと、幸介が主人公です。ある夏の日、かみさまの合宿へ招待状がとどき、こせいやたかなかみさまたちと一ぱく二日の合宿にしようせんします。あらそいばかりしているかみさまたちですが、とつぜん、大切なめとたちが何者かにさらわれてしまいます。めとたちを助けるため、みんなで力を合わせ、ときに立ち向かうというお話です。

ボンテンは、めのと幸介のことが大好きで、いつも甘えています。私もボンテンの様にお母さんに甘えて、「あれやって。」「やだ。」「やりたくない。」と毎日のように言ってしまうです。でも、私のお母さんは幸介のようにゆるしてくれません。いつも、

「自分でできることは、自分でやりなさい。」とおこられます。毎日そのくり返しです。それでも、私はお母さんが大好きです。なぜなら、お母さんがおこる時は、本当にわるいことをした時だけだからです。今回、めのと幸介の立場になってかみさまたちの話す言葉や行動をみて、「これじゃいけない。きつとお母さんもこんな気持ちだったんだな。」とハッとして反せしました。私のことを思っておこっていたんだなと感じたからです。これからは、自分でできることは自分でやろうという気持ちになりました。

また、このお話の中で、大切ななと気づいたことがありました。

それは、だれにでもとく意な事、不とく意な事、好きな事、きらいな事があるということです。かみさまたちは、めのを助けるためにゆう気を出して、ぜんいんでちえをしほり、それぞれのとくぎを活かした作せんをもとに協力することでのめとたちを助け出すことができました。まさに、「三人よればもんじゅのちえ」です。私は工作がとくいだけれど、プールは苦手です。去年まで水に顔をつけることすら出来ませんでした。でも、今年こそはやってやるぞという強い気持ちで、水に顔をつけることが出来ました。かみさまたちがこわさよりもめのとたちを助けたいという思いが強かったように、私も泳げるようになりたいという気持ちが強かったからだと思います。だれにだってとく意、不とく意はあるけれど、おたがいにもとめ合い、協力することで、何倍ものパワーになるということを感じました。

この本を通じて、私は自分のことは自分でやろうと思ったし、おたがいにみとめ合う心が大切だと強く感じました。まずは、相手を知ろうという気持ちを大切にして、これからは生活していきたいなと、思いました。

(図書名「かみさまのベビーシッター」)

〈講 評〉

「私って、ボンテンといっしょだな。」と、登場人物と自分の同じところやちがうところを考えながら読んでいます。実千花さんのように、登場人物の気持ちを想像したり、したことの理由を考えたりしながら読んでいるからこそ、読み終えた後に、自分にとって大切なことをちゃんと見つけれれるのですね。

実千花さんがこの本を読んで見つけた新しい力「おたがいをみとめ合い協力する心」を大切に、ボンテンのような「心意気・勇氣・行動力」をもつて、一つ一つの試練をこえていきましょうね。きつとできますよ。

四年 最優秀賞

力を合わせて

滝沢市立滝沢小学校 四年

藤 波 里 桃

「ベビーシッター？」神様に、ベビーシッターなんているの？わたしは、神様なのに、お世話されるの？と気になり、この本をえらびました。

主人公は、神格二段のボンテン。ある日、ボンテンは合宿にしようたいました。わたしの合宿の、イメージは、仲良くご飯を食べたり、いっしょにねたりすることです。でも、それとは真ぎやくで、不なかで、せい格はバラバラで、けんかばかりでした。ヒマロはえらそうだし、ボンテンはあまえんぼうだし、トビコははねてばかりだし、ヒイラギは何でもかみたがるし、シズクマルは泣き虫だし、トバリは物をかくすし、コテツは力がありすぎて大変なので、本当に神様なのかなと思いました。はじめは、こんな神様たちにあきれていました。でも、めのとたちがまものにつれていかれた時、神様たちは力を合わせていました。こんなにバラバラだったのに！めのとたちも、はじめはわたしと同じことを思っていたけれど、神様たちのこのすがたを見て、神様たちに対しての印しうがかわったんだと思います。

シズクマルが、まものたちに、鼻水をまきつけたところは、思わずわらってしまいました。その後、ボンテンがゆう気を出して話していたところが心にのこりました。

「われがここに来たのは、めのとたちを全員返してもらうためじゃ！わ、われとわれのめとだけが助かるためではないわ！」とボンテンが言ったところです。わたしは、ボンテンは自分勝手な

神様と思っていたけれど、本当は、やさしくて、心が強い神様でした。

コテツがヒイラギをつかみ、クラマル目がけて投げたところのコテツの顔とポーズがおもしろかったです。クラマルは、本当は雲まろ様ということが分かって、わたしは、今までいたそうなこうげきを受けていた雲まろ様がかわいそうに思えてきました。

そしてようやく神格三段になった時にわたしは、今までたくさんけんかをしていたけれど、めのとを返してもらうために、たたかっていたところは、神格三段にふさわしいなと思いました。

さい後は、ヒマロがボンテンに店に遊びに来说うたところを見て、ヒマロとボンテンは、合宿を通して、だんだん仲良くなってきたのかなと思います。

わたしは、この本を読んで、みんなで力をあわせることはとても大切だなと思いました。わたしも、グラフや表などを学校で書く時は、はんのみんなで協力し、力を合わせることができたのでよかったです。わたしは、これからも、みんなで協力し、力を合わせることができたらいいなと思います。とくに、二学期は、音楽会があるので、みんなで協力したいなと思います。

(図書名「かみさまのベビーシッター」)

〈講 評〉

ストーリーも人物もユーモアのある表現で書かれているお話を、素直に楽しく読んだことが伝わってきました。

初めは、けんかばかりしていましたが、めのとたちを助けるために力を合わせて戦うことができた神様たち。ボンテンのことを、「やさしくて心が強い神様だ」と言い、小さな神様たちの活躍に「神格三段にふさわしい」と言っていることができる里桃さんも、心に優しさと強さがあると感じました。音楽会、力を負わせてがんばってくださいね。

五年 最優秀賞

良いことの裏には

宮古市立山口小学校 五年

箱石 好南

魔女って言ったら、魔法を使ってどんなことでも自分の思い通りにしてしまう自己中心的な人。しかも使う魔法は「呪い」と呼ばれ、それをかけられた相手は不幸になるもの。それが魔女に対する私のイメージだ。でもこの物語に出てくる魔女は何だか少し違う。呪うことしか許されないってのは魔女としてのイメージ通りだけど、違うところがちらほらある。行き先のない娘を受け入れたり、いばらだけがをした娘の手当てをしたりするところだ。特にも、帰りのおそかった娘を心配して叱ったり森で生きていく術を教えたりする姿は母親のすることそのものだと思つた。そんなことは本当に大事だと思ふ相手にしかないことだと思ふし、何より叱られているにも関わらず娘の胸があたたかくなつたのは自分に向けられた愛情を感じたからだろう。しかもそんな経験は生まれて初めてだというのだから、うれしさがこみ上げてきたにちがいない。

そんな魔女が何度か同じようなことを娘に言いかせている。それは「良いことの裏には悪いこともくつついてくる。ふたつはうらおもてにできているんだ」というものだ。何だか自分にも向けられた言葉のような気がしてとても気になった。どんな意味なのか、何度か読み返しながら考えてみた。

そういえば、いつか私の母が言っていたことを思い出した。自転車で乗ろうとした私に

「便利な物は、その裏側に便利さの二倍以上の危険があるから気を付けて。」

と言つたのだ。歩くならけがをしても大したことはないが、自転車はスピードが出るからけがをしたときも歩くときのそれよりひどいものになるだろう。または、自分ではない相手にけがをさせるかもしれない。魔女の場合も弟子たちと過ごす時間は本当に楽しかったのだろう。でも、弟子たちは出ていってしまった。「出会い」があれば「別れ」がある。その別れがあまりに辛かったから、もう人を好きになるのは止めようと思つたのだろう。

でも、魔女の凍りついた心を溶かしたのは娘のあたたかな心。勿論、娘の方が先に魔女の心のあたたかさに触れたのだけど。魔女は魔女らしく王子が生まれたお祝いに「呪い」という名の祝福を贈る。祈りも呪いも、うらおもて。しっかりと魔女の言葉を聞くなら、最高の贈り物になっている。また王子も「仕返し」という名前のプレゼントを魔女に贈っている。王からの贈り物も素敵だが魔女にとつての一番は娘が家族になったことだろう。

私は本を閉じた時、心がとてもあたたかくなるのを感じた。そしてとても大切なことを学ぶことができた。誠実さや優しさはどんな人の心もあたたかくすることができると。そして、この世の中はうらとおもてが一つになっていること。どれもこれからの私にとって大切なこと。しっかりと胸にきざんでおこう。

(図書名「へそまがりの魔女」)

〈講評〉

「何度か読み返してみました」と書いてあるように、「魔女」の言動の背景を一生懸命に読み込み、一貫して物語の奥にあるテーマをたどる読み方ができています。

本を閉じたとき心がとてもあたたかくなったと述べていましたが、読書を通してこのような感情をもつ経験を重ねていきたいものですね。

六年 最優秀賞

幸せのもののさし

盛岡市立土淵小学校 六年

金森 一花

『幸せ』ってよく口にする。美味しいご飯を食べた時、ふかふかのベッドで眠る時、好きなものを見た時。本当の幸せって何だろう。私はアニメにハマっている。五年生の時は、友達とアニメの話で盛り上がりつつあった。でも、最近は友達も好きなものが変わってきて、アイドルやSNSなど今流行りの話題が増えてきた。今でもアニメが大好きな私は、本当はアニメのことをたくさん話したいけれど、友達に鬱陶しいと思われるら、と考えると不安であまり自分から話題に出せなくなっていた。

私がこの本を読んで、印象に残ったのは、『ぞうぐみさん』のお話だ。主人公が名前も知らない小さな女の子と出会い過ごす。その女の子の正体は、けんかで絶交した友達、亡くなった里美ちゃんの子どもだった。会えるはずのない空間を飛び越えて、繋がっていた。けんかのきっかけは、子どもの話だった。夫婦の不仲を子どもができないせいにする主人公に対して里美ちゃんが言った。

「そんな人のところに生まれてくる子どもはいい迷惑だ」。

「私は子どもを幸せにしたい。子どもの幸せを考える。自分の幸せのために子どもを生んだりほしくない」。

私は二人が考える幸せって誰基準？と思った。相手の幸せのために自分の幸せを我慢しなければいけないの？みんな幸せのためと言い聞かせて吞み込まなければいけないの？

でも、それは違う。好きなことができる幸せ、家族を思う幸せ、人の数だけそれぞれの幸せの形があつて、きっと正解は無い。自分

の幸せが相手の幸せになるとは限らないし、それを押し付けてはいけない。幸せは自分基準だ。そしてお互いにその幸せを認め合う。里美ちゃんは、自分の幸せを子どもに委ねるのは違うよ、自分の幸せは自分で見つけなきゃ、という思いで伝えた言葉なのだった。前に、昼休みに具合が悪くなったことがあった。保健室に行ったら？と友達に言われたけれど、掃除をサボっていると思われたくないから、と私は渋っていた。すると、友達に

「同じ班の人たちは、一花ちゃんがサボっているって思うような人たちだと思う？」

と言われた。私のことを見ている友達がいる、心が温かくなつたのを思い出した。私は友達に恵まれていて、幸せだなと思う。

私は、これからも楽しい思い出をたくさん作りたい。友達の推し話もしたいけれどお互いに無理はしたくない。それなら、私は部屋で推しに囲まれて自分時間を満喫しよう。友達とは色々な会話を楽しもう。これが今の私にとつての幸せだ。幸せかどうかは自分次第。主人公と里美ちゃん親子から学んだことだ。

これから先、何か悩むことがあったとしても、私は自分の気持ちを大切に、自分のもののさしで幸せを選んでいきたい。だって、自分を幸せにできるのは自分しかないから。

(図書名『18枚のポートレート』)

〈講評〉

書き出しを疑問形にすることで、物語を読む視点を明確にしています。この疑問形を疑問のままにせず、似たような自分の体験を重ねながら自分で答えを導き出し、導いたことを自分の生き方に生かそうとしている点などに力強さを感じました。これから出会うであろう多くの本は、一花さんの心を一層豊かに成長させていくことでしょう。

なまえは、だいすき

一戸町立奥中山小学校 一年

猪 又 ほまれ

「みんななまえがあるはずなのに、なまえのないねがいるのはどうしてかな。」とおもったので、このほんをえらびました。

このほんでは、なまえのないねがじぶんのなまえをさがしていました。ほかのねこに、「じぶんでつけられればいいじゃない、じぶんのすきななまえをさ。」

といわれても、なかなかみつからずにいるのがとてもかわいそうでした。

そんなねこに、やさしいおんなのこがなまえをつけてくれたところが、一ばんこころにのこりました。「メロン」というなまえは、ねこのめのいろにぴったりです。かわいそうだったねこが、すてきななまえをつけてもらえて、わたしもうれしくなりました。もし、わたしも、じぶんにだけなまえがなかったらとかんがえると、とてもかなしくなります。それに、せっかくじぶんでなまえをつけても、よぶひとがちがうなまえでよぶかもしれないとおもうと、わざわざなまえをさがしにいかないかもしれないとおもいました。

わたしは、じぶんのなまえがだいすきです。よばれてうれししいし、わたしがすきな「星」のかんじがはいっています。かぞくのみんながたくさんかんがえてつけてくれたときいたときから、じぶんのなまえが、まえよりもっと好きになりました。きつと、メロンもじぶんのなまえが、これからどんどん好きになるんだろうなとおもいます。

このほんをよんで、やっぱり、なまえをよんでもらうっていいなとおもいました。おともだちが、わたしのなまえをかわいくしてよんでくれるのもすきです。メロンも、「メロちゃん」ってよんでもらったら、もつとうれしくなるかもしれないなとおもいます。

これからも、じぶんのなまえをたいせつにして、ともだちのなまえもたくさんよんでいきたいなとおもいました。

（図書名『なまえのないねこ』）

〈講評〉

「もし、わたしもくだったら」と、登場人物の状況や様子に自分を当てはめて想像をふくらませている読み方がよいですね。そうすることで、「なまえのないねこ」の気持ちがよく分かったのだと思います。また、「おともだちがわたしのなまえをかわいくよんでくれるのもすき」というところからは、名前の呼び方から、ほまれさんと友だちの仲のよさが分かります。「名前」は、人と人とのつながりを表すものという気付きがすてきですね。

岩手県小学校長会賞(中学年)

また、会おうね

盛岡市立好摩小学校 四年

渡辺花野

「ヒカルとカオルが私のところにも来て、くれたらいいのにな。」
読書感想文の本がぜんぜん決まらなくて探していたら、やっと私の大好きな紫式部が登場するこの本を見つけました。歴史クラブのヒカルと文芸クラブのカオルが、紫式部のいた平安時代へタイムワープして紫式部が源氏物語を書く手伝いなどをしていました。私の読書感想文も手伝ってくれたらいいなと思ったけど、やっぱり私もタイムマシンと一緒に平安時代へタイムワープしてみたいと思いました。

一緒にタイムワープしたつもりで読んでいくと、紫式部が屋しきにこもりつきりで本の世界に逃げこんでいたことや、新しいことに挑戦することに不安になったりしているところがありました。私も本が大好きで一人で本の世界に入っていくところがあるし、新しいことに挑戦することが苦手なので、私と同じところがあって嬉しいと思いました。私も紫式部みたいに宮中に仕えてみたいと思いました。きれいな着物が着れて、部屋もきれいで、にぎやかですてきな場所にとてもあこがれます。でも平安時代は食事が一日二食と知って、びっくりしたのと、おなかですいてがまんできなさそうです。おやつはあったのかなとふしぎに思いました。さらにふしぎに思ったことは、何でえらい人に仕えなきゃいけないのかということ。他にも、女の人は漢字が読めない方がいいということや、若くて細いイケメンはモテないことなど私が思っていることとは全くちがうことがいろいろありました。ネットで調べれば分かるけど、紫式部に

聞いてみたいと思いました。

紫式部から教えてもらった言葉があります。それは「なにかからにげるためではなく想いをぶつけてみたい」という言葉です。私は、一回失敗すると、また挑戦してもどうせまた失敗するから、もういいやとすぐあきらめます。だけど紫式部は、失敗したけど次は成功させようと強い気持ちをもっていました。だから、この言葉がとても心にしました。私も紫式部のように、次は、成功させようという気持ちを強くもちたいと思いました。失敗しても、紫式部みたいに前向きな人になって、チャレンジする人になりたいと思いました。

はじめはヒカルとカオルが来て、読書感想文を手伝ってほしいと思ったけど、今は歴史クラブのヒカル、文芸クラブのカオル、家庭クラブのハナノになって一緒に勉強したいです。ここまで楽しく学べたのは、ヒカル、カオル、紫式部のおかげです。

「ありがとう。」

(図書名「紫式部へタイムワープ」)

〈講評〉

「ネットで調べれば分かるけど、紫式部に聞いてみたい。」本当に、会って話が聞けたらどんなにいいでしょう。

花野さんと紫式部は、生きている時代は全くちがいますが、にているところがありました。何だかうれいすね。タイムスリップしたことで、紫式部が強い気持ちをもってチャレンジしていたことを知ることができました。この本を通して、紫式部は、花野さんの心の中に残りました。きっと心の中で、紫式部にまた会えると思いますよ。

岩手県小学校校長会長賞（高学年）

一人一人のカラー

陸前高田市立気仙小学校 六年

河野 陽 菜

この本は、他人のことをうらやましく思ったり、なかなか本当の自分を伝えられなかったり、いろいろな主人公のお話が一つになった本です。

その中でも、私が一番心に残っているお話は、「わたしのホワイト」というお話です。このお話は、主人公が同じクラスの運動も勉強も完ぺきな柊木さんのことがかっこいいと思い、「まね」をしています。そんな中、友達のマコちゃんをゆずちゃんがまねをしたことで、けんかをしていました。そのけんかを見ていた主人公は、柊木さんのまねをしていることがバレないようにしなければ、柊木さんに嫌われてしまうかもしれないと思います。

ある日、雑貨店に行った時にお姉さんと柊木さんがいっしょにいるところを見つめます。柊木さんとお姉さんは、顔立ちも私服も笑い方も身ぶり手ぶりの一つ一つがお姉さんにそっくりでした。それを見た主人公は、

「柊木さんが、大好きなお姉さんのコピー。」であることに気づき、主人公は家にあつた柊木さんとおそろいのものを引き出しのおくにしまっていました。それから、主人公は、柊木さんの「まね」をやめ、自分で自分のものを選びに行きました。

「本当に柊木さんは特別」なのか、自分らしさとは何かを考えらせられる本です。

私は、「私のホワイト」で、

「柊木さんだったらと想像するのは楽しいけれどむずかしいことだ

といつも思っていた。でもちがった。自分で選ぶことのほうがこんなにもむずかしい。」の部分が一番心に残っています。今まで柊木さんのことを考えて文ぼう具などを買うのを楽しみにしていた主人公にとって、自分らしいものを自分で探すことはとてもむずかしいことなのだという事に気づかされたからです。

私もかわいいな、いいなと思い友人や、いとこのまねをしてみることもあります。貸してもらって使いやすかったり、自分もほしいと思うからです。

「まね」をすることは、だれかと同じものを使ったり、同じことをしたりすることです。私は、まねされた相手がいいと思えばまねしてもいいと思うし、まねされた相手がいやだと思うならまねしない方がいいと思います。

私が、もし、誰かにまねをされたら、同じものを持っているのはいけれど、それを他の人に自慢されたいやな気持ちになります。柊木さんが特別ではないことが分かった主人公は、まねしていて後悔をしていたけれど、これから自分のカラーを見つけ出して、自分らしさを大切に生きていってほしいと思います。私も、誰かのまねばかりではなく、自分らしさを大切にして、自分のカラーを見つけていきたいと思っています。

（図書名『君色パレットⅡ』）

〈講評〉

一冊の中身を一言でまとめることは容易ではありませんが、陽菜さんは最初に本の内容を紹介し、感想文への扉を開けています。

人のまねをする側面とまねをされた側面の両面に立って、自分の見解を述べている展開の仕方が巧みです。題名の「カラー」を文中でも使い、うまいまとめ方です。

わたしもめろんとよんであげるよ

滝沢市立篠木小学校 一年

ほそや はな

ひょうしのねこは、おおきくてほんものみたいです。こつちをみていてかわいいです。

でも、なまえがないみたいです。きになって、よんでみることにしました。

このほんには、たくさんのおねこがでてきました。みんななまえをもっていました。きつてんのねこは、おじさんおばさんそれぞれよぶなまえがちがついて、なまえをふたつもっていました。ふたつのなまえぶんかわいがつてもらっているんだとおもいました。くつやのねこは、なまえをきにいつてじまんしていました。「れお」はかっこいいです。

そして、なまえのないねこは、なまえがほしくなりしました。おてらのねこは、「すぐにみつかるさ。」と、いつてくれたけれど、さがしてもさがしてもみつかりません。はなやいぬにもなまえがあるのにじぶんにはなくて、のらねこでもへんなねこでもないってなやんでいました。あめまでふつてきて、こころのなかがあめでいっぱいになったとき、わたしもかなしくさみしいきもちになりました。

だから、おんなのこが、みつけてくれて、しゃがんでこえをかけてくれたときは、やさしいな、よかったなとおもいました。

ねこが、ほんとうにほしかったのは、たいせつにしてくれて、やさしくなまえをよんでくれるひとだったときがついたところで、わたしは、ねことおなじくらいむねがいっぱいになりました。うれしくて、わたしも、

「めろん。かわいいね。きれいなめだね。」

と、いつてあげたくなりました。

このほんをよんで、じぶんのなまえのこともかんがえてみました。わたしのなまえは、「柊」。「はな」とよみます。おにいちゃんがつけてくれました。おとうさんとおかあさんのやさしさも、つまっています。なまえをたいせつにします。よばれるとうれしいからみんなにいつぱいよんでもらいたいです。

（図書名「なまえのないねこ」）

〈講評〉

「ふたつのなまえぶんかわいがつてもらっているんだ」と読んでいる柊さん。名前と、その名前をよぶ人との関係について読み取れていることが伝わるすてきな気づきです。また、「なまえのないねこ」に思いを重ねて、悲しくなったり、胸がいっぱいになったりしていきすね。人物の気持ちを想像し、自分と重ねて考えているところに驚かされました。そして、柊さんが優しくあたたかい家族に包まれていることも伝わってきましたよ。

すなおに話すことの大切さ

岩手県立岩泉小学校 三年

佐々木 咲 季

わたしは、動物が大好きです。しかし、アレルギーをもっている
ので、動物とはあまりふれあうことができません。それでも、動物
といっぱいふれあうことを夢見ているので、「飼育委員はアキラめ
ない」を読みました。

この本は、生き物が大好きで、みんなから生き物博士とよばれて
いるアキラが、飼育委員になった物語です。アキラは、学校でかわ
れている生き物のお世話をしていく中で、色々なことに気づいて、
自分の気持ちにすなおになっていきます。この物語の中で、わたし
が心にのこっている場面が二つあります。

一つ目は、アキラがみんなに「こんなぼくを飼育委員にしてくれ
てありがとう」と言った場面です。飼育委員になったばかりのアキ
ラは、だれに対しても、思っていることとちがうことを言っていま
した。例えば、事むしよく員の鳥ぶかさんにきのうの飼育当番の様
子を聞かれたときに、「大じょうぶじゃなかった。」と思っていたけ
れど、「はい、大じょうぶでした。」と言いました。ほかの場面でも、
思ったこととちがうことを言っていました。しかし、アキラは学
校で飼われている生き物たちのお世話を通して、だんだんと本当に
思ったことを話せるようになっていきました。

二つ目は、アキラが、「あのね、ぼく、生き物、なにも飼ったこ
とないんだ。」と言った場面です。なぜなら、アキラが本当のこと
を言ったからです。今までのアキラだったら、本当のことを言った
らわらわれるかもしれないと不安だったでしょう。けれども、すな

おに話してみると、かくすほどのことでもなかったことに気づきま
した。そして、アキラは、すなおに話すことを楽しくすることができ
るという新しい考えをもつことができました。

この本を読んで、アキラのように自分の気持ちや考えなどをすな
おに話せるようになっていきました。わたしは、たまに本当の
自分の気持ちや考えなど、思ったことをすなおに話せないときがあ
ります。

だから、わたしは、すなおに話せるようになって、毎日を楽しく
過ごしていきたいと思います。例えば、学習では、自分の意見をしつ
かりともち、発表していききたいと思いました。

わたしは、野外活動を行う、ふるさと少年たいにさんかしていま
す。ふるさと少年たいでは、ほかの学校と交流があり、中学生、高
校生ともいっしょに活動します。ふるさと少年たいでは、色々な学
校とかかわるので、会うのがはじめての人といっぱいます。しか
し、そんな時でもゆう気を出して、自分の気持ちや考えなどをはつ
きりと話していきたいと思います。すなおに話した相手もきつとすなおに
話してくれるでしょう。お互い自分のことをわかってくれるから、
もつと楽しくすごせるようになると思います。そうして、どんど
友だちのわを広げていききたいです。

（図書名「二年一組せんせいあのね こどものつぶやきセレクション」）

〈講 評〉

アキラや咲季さんと同じように、だれもが自分の気持ちをすなおに話せ
たらいいのになあと思っているのではないのでしょうか。咲季さんの文章を
読み、アキラの勇氣ある行動を知り、あらためて、自分の気持ちや考えを
すなおに話すことの大切さを教えてもらった気がしました。

咲季さんが大切にしているふるさと少年隊の活動でも、アキラのことを
思い出して、咲季さんの考えを友達に伝えてみてください。

あと一步のその先へ

奥州市立江刺ひがし小学校 五年

高橋 茉莉衣

私は、背が高い方ではない。背が高い人がうらやましいと思ったことが何度もある。この本の主人公、美桜はバレーボールをしている身長の高い女の子だ。私は、バドミントンのチームに所属している。試合の時には、緊張して頭が真っ白になり、声が小さくなってしまふ。競技はちがうけれど、「声を出していこう!」というサブタイトルにひかれ、本を手にとった。私と似ていると思いながら本をめくると、そこには、どんな逆境にもあきらめずに、一生けん命立ち向かっていく美桜の姿があった。

私は初め、美桜の強さは最後まであきらめないとこころだと思った。美桜は、試合で負けて、チームの雰囲気が悪くなってしまつても、決してあきらめなかった。私だったら、「もう無理だ。」とあきらめて終わるだろう。だって、あきらめた方が楽だから。でも、「あきらめない」という言葉は、今まで両親にだって、先生にだって何度も言われてきた。最後までやり遂げる方がいいことは、私も分かっている。では、美桜のチームはなぜ勝つことができたのだろう。

心に残ったことは、美桜が追いつめられれば追いつめられるほど、その時々に応じて、考え方を変えていったことだ。美桜は、今できることを一つ一つ、目の前の課題に向き合っていた。あきらめないことが美桜の強さだと思っていたけれど、次に自分がどうするよいかを考えて行動していたことこそが美桜の強さではないか。その一つが声出しだ。声出しには、「ミスをしてもし引きずらない。ミスをしてもし引きずらせない。調子がいい時はさらに調子にのせる」と

いう効果がある。美桜は、自分の調子がよくなることだけではなく、どうするとチームの気持ちが高まるのかを考えて声出しを始めたのだと思う。そして、自分の意見を伝え続けたのだと思う。声を出すことで、チームメイトの気持ちまで変えていった。だから、美桜のチームはどんどん強くなってきたのだろう。美桜が気づかないうちに、課題のさらにその先を目指したからこそ、強くなることができたのだと思った。

夏休み、私はバドミントンの大会に出場する機会があった。試合が始まると、いつにも増して、頭は真っ白になり、緊張で足もふるえた。もう無理だと、涙が出そうになった。そんな時、「声出しの効果」を思い出した。声を出してみると落ち着いて、前よりほんの少しだけ強気になり、いつも通りのプレーができた。結果は負けってしまったけれど、最後までやり切ることができ、一歩ふみ出せたような気がした。声を出すと、こんな気持ちになれるのか。少し美桜に近づけた気がした。また弱気になった時には、美桜を思い出してみようと思う。声を出し、新たな課題に立ち向かうあの姿を。私もあきらめないのその先を目指して…。

（図書名『アタックライン』）

〈講評〉

物語を読んだ感想を素直に書いています。短い文で積みかけたり言い切りの文末を繰り返したりして、歯切れのよい文章でした。

主人公の姿に自分を投影させて読み、立ち止まりながら考えています。最後も茉莉衣さんの言葉が使われ、深まりが伝わりました。

じぶんだけの名前

盛岡市立本宮小学校 一年

さとう はると

ぼくが、このお話をすきなりゆうは、さいしよはなんの名前もないねこがすてきな名前をもらうところがとてもよかったからです。

一びきのなんの名前もないねこは、いろいろなお店のねこたちを見て、ぼくも名前がほしいなと思っていました。いろいろなお店の名前のあるねこたちは、じぶんの名前をかつこいい、とほこりに思っていたんだと思います。それは、じぶんの名前はいぬしがころをこめて、ねがいをこめてつけた名前だとしていてるからだと思います。そして、そのねこたちは、かいぬしに名前をつけてもらい、あんぜんな家にいてあんしんしてくらしているのだと思います。

ぼくは、このしゅじんこのねこは、名前があればみんなに声をかけてもらえるんだなみんなによんでもらえていいな、みんなにあいさつしてもらいたいな、名前でもんでもらいたいな、と思っていたんだと思います。でも、じぶんにぴったりの名前をそうぞうしても思いつかなくて、かなしいし、なやんだんだと思います。

女の子にあった日、名前のないねこはベンチの下にへこたれてくらくてさびしいきもちでころの中が雨の音でいっぱいだったと思います。ねこを見つけた女の子は、きつとねこがだいすきだったから、ねこのいそうなばしよがわかったし、ねこの顔をみておなががすいているのかなとしんばいになったのだろうと思いました。

ぼくは、名前のないねこは女の子に「メロン。」というじぶんだけの名前をもらって、とてもうれしかったと思います。「ほしかったのは、なまえじゃないんだ。なまえをよんでくれるひとなんだ。」とかいてあるのは、じぶんをたいせつにしてくれるひとがほしかったということだと思いました。

（図書名『なまえのないねこ』）

〈講評〉

遥翔さんは、「ねがいをこめてつけた名前だとしていてるからだと思います。」「かなしいし、なやんだんだと思います。」「しんばいになったのだろうと思いました。」と、ねこや女の子の気持ちを豊かに想像していますね。その手がかりとして、ねこたちの「様子」や人物の「表情」、人物同士の「関係」、「さし絵」などをよく読んで見たりしたことの方がええます。これからも、こうした視点で読みを深めたり広げたりしてみてくださいね。

新しいことにチャレンジジ

久慈市立久慈小学校 四年

櫻庭 悠馬

この本は、人と関わるのが苦手な主人公のアキラがクラスの飼育委員になり、動物との関わりを通して成長していくことで、人と上手に関われるようになるお話です。アキラは、飼育委員になった当日にニワトリを逃がしてしまします。ほくは、家でハムスターを飼っているの、動物のお世話の大変さがよくわかります。なので、ニワトリを逃がしてしまったときのアキラの落ち込む気持ちもよくわかりました。そんなアキラがどのように成長していくのかが気になって、この本を読もうと思いました。

この本を読んでみて、心に残った場面が二つあります。

一つ目は、アキラがこわくて苦手だった先生を好きになる場面です。こわいと思っていた安藤先生といっしょにニワトリやウサギのお世話をするようになったときに、安藤先生が本当は優しい先生であることに気づきました。飼育委員の仕事や動物との関わりを通して、安藤先生のよさを見つけることができたことがいいなと思いました。もし、アキラが飼育委員にチャレンジしていなかったら、安藤先生のことは苦手なままだったかもしれません。ほくは、この場面から、新しいことにチャレンジすることの大切さを学びました。そして、苦手な人ともたくさん関わることで、その人のよさを見つけることができると思いました。

二つ目は、学級でお世話をしているハムスターが脱走してしまう場面です。アキラが泣いていると、脱走した三匹のハムスターがもどってきました。ほくも、ハムスターを脱走させてしまったことが

あるので、もどってきてくれてよかったなと思いました。アキラがいつもいっしょけんめいにお世話をしていたから、ハムスターに気持ち伝わったのかなと思いました。アキラが泣いていると、クラスの友達が心配してかけつけてくれました。人と関わることで苦手なアキラでしたが、友達の支えがあつて乗りこえることができました。何かにチャレンジするときは、みんなで協力することが大切だと思いました。

この本は、生き物が好きな人や何か新しいことにチャレンジしようとしている人に勇気をくれる本です。ほくは、クラブ活動で行っているテニスで、もっといろいろなことにチャレンジしてみたいです。五・六年生のお兄さん、お姉さんと積極的に関わって、上手なプレーを真似したり、高学年にまかせきりにするのではなく、いっしょに協力して準備をしたりと、今までチャレンジしてこなかったことにも取り組んでいきます。

ほくもアキラのように新しいことにチャレンジして、たくさんの人と関わりながら成長していきたいと思っています。

（図書名『飼育委員はアキラめない』）

〈講評〉

題名と、心に残った二つの場面、そして、まとめの文章の筋がすっと通っていて、悠馬さんがこの本を読んで大切だと思ったことが、とてもよく伝わってくる文章でした。

人と関わるのが苦手だったアキラは、飼育委員にチャレンジし、それを一生懸命やったことで、色々な人と関わって成長しました。悠馬さんの今のチャレンジも、これからの新しいチャレンジも、素晴らしいチャレンジになると思います。アキラに負けないくらい成長していきましょうね。

「パラリンピックは世界をかえるルートヴィヒ・グツトマンの物語」を読んで

平泉町立長島小学校 六年

千葉 碧 依

ぼくは、本を読むことが好きで、いつも図鑑を読むことが多いです。今回は、夏休みなので、あまり読んだことがない本を読みたいと思い、本屋へ行きました。すると「パラリンピックは世界をかえるルートヴィヒ・グツトマンの物語」という本がありました。この本を手にした時にパラリンピックは世界をかえるってどういうことだろうという気持ちになりました。読むのが楽しみになって、家に帰り、すぐに読み始めました。

この物語には、ルートヴィヒ・グツトマンという神経外科医をしている人が登場します。ドイツの町にユダヤ人として生まれ、ナチスによる迫害を受けます。しかし、イギリスに亡命したことで、あきらめていた下半身まひの患者の治療に取り組み、生存率を大幅にあげました。ルートヴィヒが始めた小さな競技大会はパラリンピックへと成長し、やがて社会を変えることになったというお話です。

この本で心に残ったことは、第九章の「希望の回復」というお話です。ルートヴィヒが戦争でけがをした兵士のレグに特殊な装具をつけたところ、何歩か歩けるようになったというところを読みました。ぼくはルートヴィヒが無理だとしてもあきらめずに行動しているところに心を打たれました。

また、第十二章の「車椅子は進む」というお話では、「ストーク・マンディウル競技大会の精神は、オリンピック精神にもまさっている

。選手達は技術と忍耐力だけではなく、勇気と自尊心をも競い合っている。」とされ、ルートヴィヒはフアンリー杯を授与されました。これが、パラリンピックのきっかけとなったそうです。ぼくは、ルートヴィヒの考え方ややり続けてきたことが功績としてたたえられたことが、すばらしいと思いました。

この本を読み終わって、ぼくは「パラリンピックは世界をかえる」ということの意味が分かったような気がします。ルートヴィヒがパラリンピックのきっかけを作ったことはすごいと思います。しかし、ルートヴィヒの取り組みによって、けがをした人や障害のある人達が勇気や情熱を持って生きることができたところが、一番よかったと思いました。

ぼくは、三年生から野球を続けています。あまりうまくバッティングができない時もあって、悔しくてあきらめたときがあります。そのような時、ルートヴィヒのように、やり続けることで何かが変わると信じて、練習をがんばろうと思いました。

そして二〇二四年はパリオリンピック、パラリンピックがある年です。ルートヴィヒの思いを知った今は、パラリンピックを見るほくの目が変わると思います。テレビから見ることしかできないけれど、選手達のがんばる姿をしつかりと見て、心から応援したいと思っています。

〈講評〉

まず、選書の時点で新しい分野に挑戦したということに大きな拍手を送りたいです。

そして、文章全体から歴史に学ぶ感動が伝わってきてわくわくしました。最後に「ぼくの目が変わると思います」と書いてあり、碧依さんの見方や考え方の変化に嬉しくなりました。本書に出会えたこの夏、特別に意義深いものになったことでしょう。

（図書名「パラリンピックは世界をかえる」）

審査を終えて

第八一回夏休み良書推薦運動読書感想文コンクールには、県内の小学校三十五校から五十六点（低学年二十一点、中学年十九点、高学年十六点）の作品が寄せられました。応募数は少なかつたのですが、学年が上がっても引き続き応募してくださった子ども達もいて嬉しくなりました。何度も応募している子ども達の作品も含め、丁寧に取組まれた作品が多く、難しい審査となりました。

学校賞は、優秀な作品を応募してくださった上田小学校です。学級賞は、残念ながら該当がありませんでした。学校の多忙化の影響でしょうか。もしかしたら、猛暑の影響かもしれませんね。取組んだ子ども達と、ご指導くださったご家族や先生方に感謝申し上げます。

以下、今回の審査で話題になったことをお伝えします。

「低学年」

一、二年生の作品は、入門期にもかかわらず、主述の整った文で、その上、規定枚数まできっちり書いて作品がほとんどでした。段落のまとまりもあり、低学年なりに構成が工夫されていました。テーマに沿って、主人公のこころと自分の具体的な経験がバランスよく表現されている作品は、感想文の基本です。

絵本の感想には、絵を楽しんでいることが分かる文がありました。絵も含めて、本を丸ごと味わっているのは、とても素晴らしいです。絵を楽しんだり、文章を読んだりしたことをきつかけにして、興味関心が広がっていったことが伝わる作品もありました。低学年らしい素直で直接的な表現も好感がもてました。

「中学年」

三、四年生の作品からは、本の世界を楽しんでいることが伝わってきました。作品と自分の体験を重ねるところの、引き寄せ方が個性的でした。中には、経験と重ねる段階で本の主題からそれてしまった作品がありました。主題はしっかりと読んでいてほしいです。題名と最後がぶれずに表現されている作品は、素晴らしいです。

また、文章の終わりが、「ぜひ読んでください。」という紹介文的な形式になっている作品がありました。最後の一文まで本の感想であってほしいと思います。

今回の応募作品は、敬体で書かれた作品が多かったのですが、その中で常体で書かれた作品が、展開のリズムがあつてとても印象に残りました。四年生くらいからは挑戦してほしいです。

「高学年」

五、六年の作品は、題名が見事でした。題名から最後に至るまで筋が通っている作品がありました。キーワードと題名の関係性も見事でした。文の書き出しが読み手を引きつける作品は、高学年らしいです。引用の量も適切で、最後までしっかりと書き込んでいると感心しました。

ただ、原稿用紙一枚目すべてが、選書のきつかけだけになっている作品もありました。それでは、主題について読み深めていくための字数が足りなくなりました。

また、文章は秀でていますが、生活文なのか感想文なのか悩む作品もありました。感想文は、本の主題をどう読んでいくかが大切なので、作品の読み手に、感想文であることが伝わるような構成の工夫が必要です。本の主題の伝えはとも良いので、どこに重きを置くかをよく考えて書き進めていくことが求められます。

さらに、本を通して変容したことやこれからの生き方につながる表現があれば、より良い感想文となります。

「終わりに」

私達審査員は、感想文審査の前に課題図書となる本を選定しています。本を読みながら、この本でどんな感想文が書かれるだろうと想像しながら本を選びます。ですから、私達の想像を超える作品に出会うと、感動してしまいます。

本は、多様な感情や知識を与えてくれますし、私達のくらしを豊かにしてくれます。本を読むことだけでも素晴らしいのですが、さらに、感想文を書くことは、素材だけでもおいしい食べ物、経験というスパイスで味付けをしてスープを作るようなものです。時間も手間もかかります。

それでも、感想文を書く経験が、みなさんの学校生活をより豊かにしてくれることを信じています。次回の冬休みの応募作品が、このコンクールの最後となる予定です。フィナーレを飾るたくさんさんの作品をお待ちしています。

審査員 畠山 明美

残念ながら次回（82回）のコンクールが最後になります。

是非、たくさんのご応募をお待ちしています。



次回予告

令和6年度冬休み良書推薦運動 第82回読書感想文コンクール募集要項

- 1 主催 岩手県良書推進協議会
- 2 協賛 岩手県学校生活協同組合
- 3 後援 ・岩手県小学校長会 ・岩手県学校図書館協議会
・（一社）岩手県PTA連合会
- 4 課題図書 2024年「冬休み良書推薦運動」
学年・学団対象24冊・学年共通6冊 計30冊（10月下旬案内開始予定）
※上記以外の図書、学団（低・中・高）ちがいの場合は、審査の対象となりません。
- 5 用紙・字数 ・1・2年生は400字詰め原稿用紙2枚以内
・3～6年生は400字詰め原稿用紙3枚以内
・1行目に題名、2行目に学校名・学年・氏名、3行目から本文
鉛筆は、B以上の濃さのもので書く。
・課題図書名は1枚目の枠外に縦書きで明記
- 6 応募作品 一人1点（県下小学校児童）
応募作品は、オリジナルで自筆、未発表の物に限ります。
（他のコンクールとの二重応募は認めません）
・応募作品は、理由を問わず返却しません。（必要な場合はコピーをお取り下さい）
・応募作品の著作権、版權は主催者に帰属します。ただし、本人および在籍学校内での利用は妨げません。
・応募要項・課題図書名・前回までの上位入賞作品は学校生協ホームページで確認できます。
・応募された方の氏名・学校名・学年・感想文の題名・対象図書名および作品、表彰式の様子は、主催者および岩手県学校生活協同組合のホームページ、刊行物、取材報道等で公表することがあります。
- 7 応募締切 2025年1月27日（月）必着
- 8 応募先 〒020-0691 岩手県滝沢市土沢220-5
岩手県学校生活協同組合 企画課 学用品内
「読書感想文コンクール係」
TEL 019(687)2246 FAX 019(687)2240

